

Denka

Possibility
of
chemistry

2021年度 第1四半期 (2022年3月期) 決算説明会資料

証券コード：4061

デンカ株式会社

2021年8月6日

1 2021年度 第1四半期 決算概要

① 連結サマリー	(前年比)	03
② 増減要因	(")	04
③ 営業利益 増減要因グラフ	(")	05
④ セグメント別内訳	(")	06
⑤ セグメント別増減要因	(")	07-08

2 2021年度 業績予想

① 連結サマリー	(期初予想比・前年比)	10
② 上期：増減要因	(期初予想比)	11
③ 上期：営業利益 増減要因グラフ	(")	12
④ 上期：セグメント別内訳	(")	13
⑤ 上期：セグメント別増減要因	(")	14-17
⑥ 通期：セグメント別内訳	(")	18
⑦ 主要指標		19
⑧ 株主還元		20
⑨ Denka Value-Up 2022年度数値目標		21

2021年度 第1四半期 決算概要

単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	主な増減要因
売上高	762	867	+ 105	(後頁に記載)
営業利益	44	77	+ 33	(後頁に記載)
営業利益率	5.8%	8.9%	+ 3.2%	
経常利益	50	75	+ 25	金利・営業外損益等 △ 8 ← + 25
純利益	42	62	+ 20	特別損益・法人税等 △ 5 ← + 20

新型コロナのマイナス影響がまだ残るものの、Denka Value-Upの施策が功を奏した結果、
第1四半期として過去最高の営業利益を更新

売上高

867億円

前年比（億円）

+ 105

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 1. 数量差：新型コロナウイルス影響からの需要回復 | |
| その他（xEV関連・半導体関連製品の需要伸長、他） | + 130 |
| 2. 売価差：原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等 | + 57 |
| 3. その他：収益認識に関する会計基準変更（グループ商社売上高変更など） | △ 82 |

前年比（億円）

+ 33

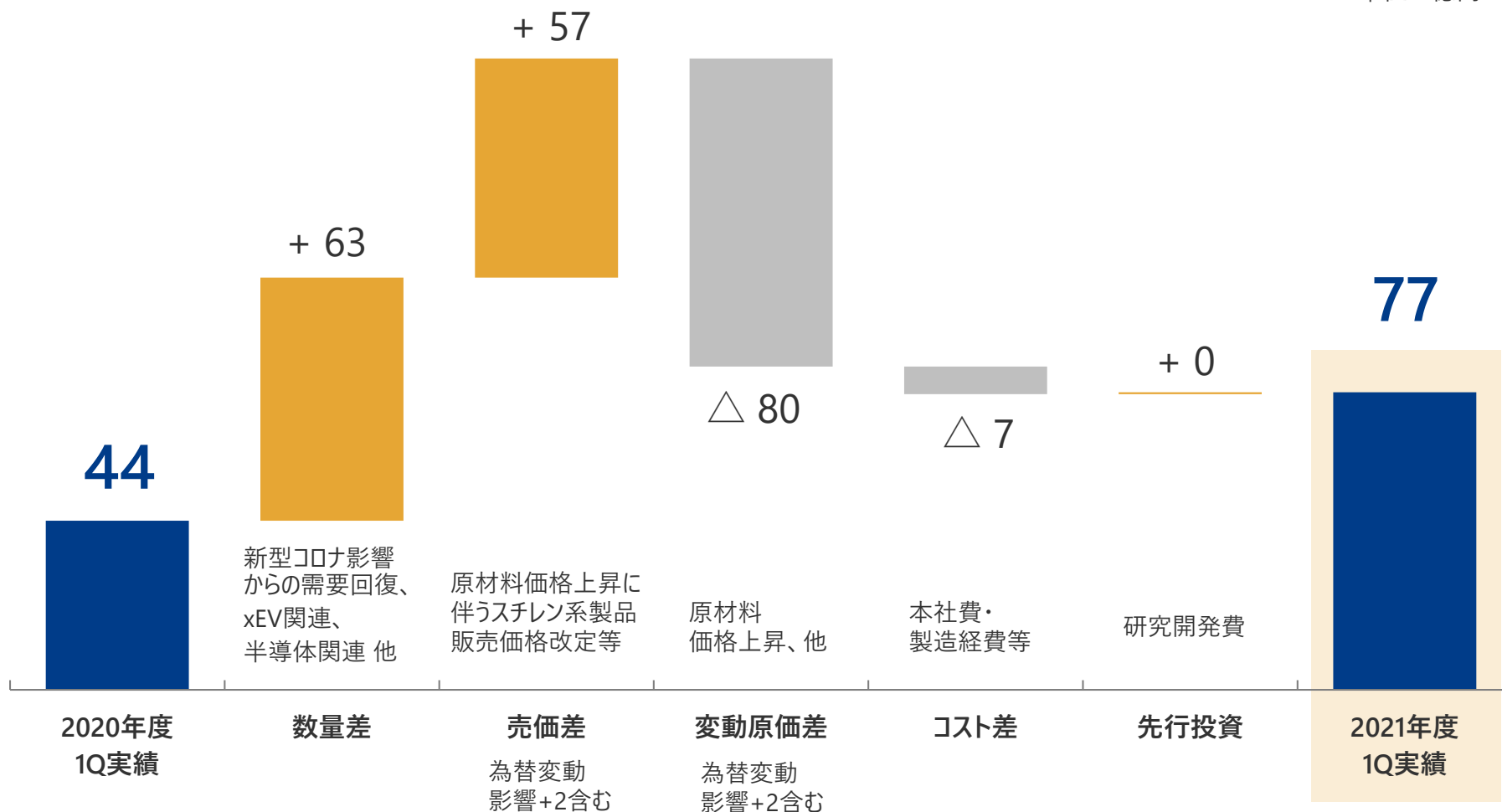
営業利益

77億円

- | | | |
|----------|--|------|
| 1. 数量差 | ： 新型コロナウイルス影響からの需要回復 | |
| | その他（xEV関連、半導体関連製品の需要伸長、他） | + 63 |
| 2. 売価差 | ： 原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等（為替変動影響+2含む） | + 57 |
| 3. 変動原価差 | ： 原材料価格上昇、他（為替変動影響+2含む） | △ 80 |
| 4. コスト差 | ： その他本社費・製造経費等 | △ 7 |

**新型コロナウイルス影響からの回復に加え、
xEV・半導体関連製品の需要が伸長したことによりスプレッド悪化を吸収**
（製品売価と原材料価格との差額）

単位：億円



新型コロナウイルス影響からの回復に加え、
xEV・半導体関連製品の需要が伸長したことによりスプレッド悪化を吸収

売上高 単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	売価差	数量差	その他※
電子・先端プロダクツ	171	210	+ 39	+ 4	+ 49	△ 13
ライフイノベーション	53	60	+ 7	△ 2	+ 9	△ 0
エラストマー・インフラソリューション	198	246	+ 48	+ 2	+ 54	△ 9
ポリマーソリューション	253	318	+ 64	+ 54	+ 15	△ 4
その他 / 消去差	87	35	△ 52	-	+ 3	△ 55
合計	762	867	+ 105	+ 57	+ 130	△ 82

※収益認識に関する会計基準変更

営業利益 単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	28	44	+ 16	+ 4	+ 23	△ 11
ライフイノベーション	0	3	+ 3	△ 2	+ 4	+ 0
エラストマー・インフラソリューション	3	1	△ 2	+ 2	+ 29	△ 33
ポリマーソリューション	13	26	+ 13	+ 54	+ 6	△ 47
その他 / 消去差	0	4	+ 4	-	△ 0	+ 4
合計	44	77	+ 33	+ 57	+ 63	△ 87

電子・先端プロダクツの売上拡大とポリマーソリューションのスプレッド改善が増益に貢献

電子・先端プロダクツ

営業利益の主な増減要因

単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	
				球状アルミナ : xEV関連、5G通信関連の需要伸長 シンガポールでの新設備一部稼働効果により出荷増
売上高	171	210	+39	アセチレンブラック : xEV関連、洋上風力発電高圧ケーブル用途の需要堅調
営業利益	28	44	+16	溶融シリカ・高機能フィルムなど : 半導体関連の需要が伸長

ライフソリューション

営業利益の主な増減要因

単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	
				新型コロナ検査キット : 昨年1Q未上市~数量差
売上高	53	60	+7	その他検査試薬 : コロナからの需要回復
営業利益	0	3	+3	

xEV、半導体、感染症関連などのスペシャリティー事業が成長を牽引

エラストマー・インフラソリューション

営業利益の主な増減要因

単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	
売上高	198	246	+48	クロロプレンゴム：コロナからの需要回復による販売数量増もDPEでの寒波による稼働減や原材料価格上昇によりほぼ前年並み
営業利益	3	1	△2	セメント：販売数量が前年を下回り、石炭価格上昇も影響し、減益

ポリマーソリューション

営業利益の主な増減要因

単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	
売上高	253	318	+64	MS樹脂（シンガポール）：概ね前年並みの出荷。
営業利益	13	26	+13	AS・ABS・透明樹脂など Toyokalon }：昨年度の新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復。

その他/消去差

売上高の主な増減要因

単位：億円	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	増減	
売上高	87	35	△52	収益認識に関する会計基準変更（グループ商社売上高部分の減少）
営業利益	0	4	+4	

クロロプレンゴムや機能樹脂などの基盤事業の需要が回復

2021年度 業績予想

2021年度 上期

2021年度 通期

単位：億円

	期初 予想	今回 予想	期初 予想比	2020年度 上期 実績		前年比	期初 予想	今回 予想	期初 予想比	2020年度 通期 実績		前年比
売上高	1,750	1,850	+ 100	1,603		+ 247	3,650	3,650	± 0	3,544		+ 106
営業利益	190	220	+ 30	121		+ 99	420	420	± 0	347		+ 73
営業利益率	10.9%	11.9%	+ 1.0%	7.5%		+ 4.4%	11.5%	11.5%	± 0.0%	9.8%		+ 1.7%
経常利益	170	200	+ 30	123		+ 77	390	390	± 0	321		+ 69
純利益	130	150	+ 20	100		+ 50	290	290	± 0	228		+ 62

上期：売上高・営業利益・経常利益・純利益いずれも上方修正

通期：現時点では期初予想を据え置き

売上高

1,850億円

期初予想比（億円）

+100

- | | | |
|--|--|------|
| 1. 数量差：プラス要因（半導体関連製品、クロロプレンゴム等の上振れを織り込む） | | |
| マイナス要因（インフルエンザワクチン等の下振れを見込む） | | + 5 |
| 2. 売価差：新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの想定売価の上方修正 | | |
| 原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定、他 | | + 95 |

営業利益

220億円

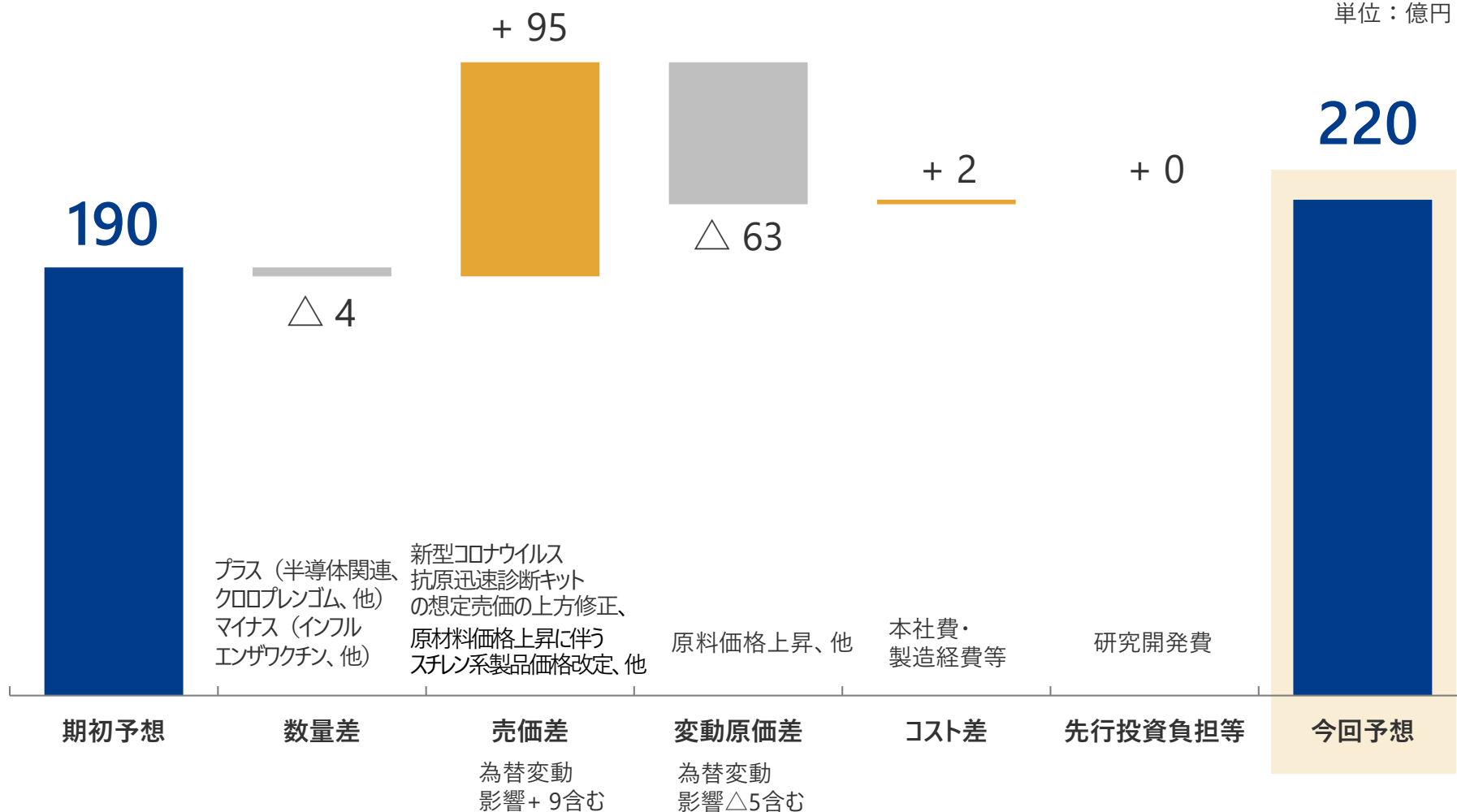
期初予想比（億円）

+30

- | | | |
|----------|---|------|
| 1. 数量差 | ：インフルエンザワクチンの数量減影響など | △ 4 |
| 2. 売価差 | ：新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの想定売価の上方修正、
原材料価格上昇に伴うスチレン系製品価格改定、他（為替変動影響 + 9含む） | + 95 |
| 3. 変動原価差 | ：原材料価格上昇、他（為替変動影響△5含む） | △ 63 |
| 4. コスト要因 | ：その他本社費・製造経費等 | + 2 |

営業利益は、新型コロナ抗原迅速診断キットの想定売価の上方修正を含む売価差のプラスが、原材料価格上昇による変動原価差のマイナスを上回る見込み

単位：億円



営業利益は、新型コロナ抗原迅速診断キットの想定売価の上昇修正を含む売価差のプラスが、原材料価格上昇による変動原価差のマイナスを上回る見込み

売上高 単位：億円	2021年度	2021年度	増減	2021年度	
	上期 期初予想	上期 今回予想		売価差	数量差
電子・先端プロダクツ	420	430	+ 10	+ 1	+ 9
ライフイノベーション	180	240	+ 60	+ 58	+ 2
エラストマー・インフラソリューション	500	510	+ 10	+ 8	+ 2
ポリマーソリューション	600	620	+ 20	+ 28	△ 8
その他 / 消去差	50	50	± 0	-	± 0
合計	1,750	1,850	+ 100	+ 95	+ 5

営業利益 単位：億円	2021年度	2021年度	増減	2021年度		
	上期 期初予想	上期 今回予想		売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	80	80	± 0	+ 1	+ 8	△ 9
ライフイノベーション	50	85	+ 35	+ 58	△ 17	△ 6
エラストマー・インフラソリューション	10	5	△ 5	+ 8	+ 8	△ 20
ポリマーソリューション	45	45	± 0	+ 28	△ 3	△ 25
その他 / 消去差	5	5	± 0	-	+ 0	△ 0
合計	190	220	+ 30	+ 95	△ 4	△ 61

営業利益はライフイノベーションの増益が上方修正の主要因

単位：億円			2021年度 上期 期初予想	2021年度 上期 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等	2020年度 上期 実績
売	上	高	420	430	+ 10	+ 1	+ 9		367
営	業	利 益	80	80	± 0	+ 1	+ 8	△ 9	66

営業利益の主な増減要因

販売動向

球状アルミナ

- 需要が伸長しているxEV関連、5G通信関連は期初予想並みを見込む
- シンガポールでの新設備一部稼働効果も期初予想並み

アセチレンブラック

- xEV関連用途や、洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要が堅調に推移し、概ね期初予想並みの出荷を見込む

セラミックス基板

- 新型コロナウイルスの影響が続いている電鉄向けの需要回復の遅れを織り込む

溶融シリカ 高機能フィルム

- 5G通信やデータセンター需要の拡大を背景に、半導体関連製品は、期初予想に対する出荷の上振れを見込む

コスト

- 原材料価格上昇、製品構成差によりコストが悪化

**原材料価格上昇などによりコストが悪化するも、
半導体関連製品の需要が想定を上回り、期初予想並みの営業利益を見込む**

単位：億円			2021年度 上期 期初予想	2021年度 上期 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等	2020年度 上期 実績
売	上	高	180	240	+ 60	+ 58	+ 2		162
営	業	利 益	50	85	+ 35	+ 58	△ 17	△ 6	24

営業利益の主な増減要因

販売動向

新型コロナウイルス 抗原迅速診断キット

- 期初予想で織り込んでいた想定売価の上方修正
- 期初予想に織り込んでいた高齢者施設でのスクリーニング検査などの需要の広がりについては、今回の日本政府への供給により、想定を一定程度上回る

その他検査試薬

- 中国向けの需要回復に加えて、欧米での新型コロナ感染者のコロナ以外の検査需要増加の動きがあり、想定を上回る

インフルエンザワクチン

- 出荷本数は、前年並みとしていた期初予想を下回る可能性があり、織り込んだ

**インフルエンザワクチンの出荷本数が期初予想を下回る可能性を織り込む一方、
新型コロナウイルス抗原迅速診断キットが増益を牽引**

単位：億円			2021年度 上期 期初予想	2021年度 上期 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等	2020年度 上期 実績
売	上	高	500	510	+ 10	+ 8	+ 2		418
営	業	利 益	10	5	△ 5	+ 8	+ 8	△ 20	△1

営業利益の主な増減要因

販売動向

クロロプレングム

- 昨年度後半より需要を牽引した医療用手袋用途は一時的な減速も見られるが、産業用途、接着材用途、自動車用途などの需要回復が堅調に推移し、想定を上回る見込み。

特殊混和材

- 昨年度の新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復は、期初予想並みの販売を見込む

セメント

- 昨年度の新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復は、期初予想並みの販売を見込む

コスト

- 原材料価格上昇（ブタジエン・塩素（クロロプレングム DPE）、石炭（セメント）、他）

**クロロプレングムの需要が想定を上回り回復するも、
足元での原材料価格上昇などにより期初予想に対し下振れを見込む**

単位：億円			2021年度 上期 期初予想	2021年度 上期 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等	2020年度 上期 実績
売	上	高	600	620	+ 20	+ 28	△ 8		504
営	業	利 益	45	45	± 0	+ 28	△ 3	△ 25	29

営業利益の主な増減要因

販売動向

MS樹脂

- TVやモニターなどの導光板用途や、化粧品容器などその他の用途において、需要が堅調に推移しており、期初予想並みを見込む
- シンガポールでの生産能力倍増（7月稼働開始）

AS・ABS・ 透明樹脂など

- 需要回復による数量増、在庫影響などにより利益増を見込む

食包シート・ デンカポリマー

- 昨年度の新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復により、期初予想並みを見込む

Toyokalon

- 昨年度の新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復により、期初予想並みを見込む

コスト

- 原材料価格上昇（エチレン、ベンゼン、他）

原材料価格上昇もスプレッドを維持し、期初予想通りの営業利益を見込む
(前年同期比1.5倍)

	2021年度 上期			2021年度 通期		
	2021年度 上期 期初予想	2021年度 上期 今回予想	増減	2021年度 通期 期初予想	2021年度 通期 今回予想	増減
売上高 単位：億円						
電子・先端プロダクツ	420	430	+ 10	850	850	± 0
ライフイノベーション	180	240	+ 60	400	400	± 0
エラストマー・インフラソリューション	500	510	+ 10	1,050	1,050	± 0
ポリマーソリューション	600	620	+ 20	1,250	1,250	± 0
その他 / 消去差	50	50	± 0	100	100	± 0
合計	1,750	1,850	+ 100	3,650	3,650	± 0
営業利益 単位：億円						
電子・先端プロダクツ	80	80	± 0	170	170	± 0
ライフイノベーション	50	85	+ 35	105	105	± 0
エラストマー・インフラソリューション	10	5	△ 5	40	40	± 0
ポリマーソリューション	45	45	± 0	95	95	± 0
その他 / 消去差	5	5	± 0	10	10	± 0
合計	190	220	± 30	420	420	± 0

現時点では各セグメントの通期予想も据え置き

単位：億円	2020年度 1Q実績 (4-6月)	2021年度 1Q実績 (4-6月)	2021年度上期 今回予想 (4-9月)	2021年度通期 期初予想 (4-3月)
投資	71	76	220	430
減価償却費	57	57	115	235
研究開発費	38	38	80	160
有利子負債残高	1,422	1,402	1,380	1,370
	2020年度 1Q実績 (4-6月)	2021年度 1Q実績 (4-6月)	2021年度上期 今回予想 (4-9月)	2021年度通期 期初予想 (4-3月)
為替レートの (円 / \$)	107.7	109.8	110.0	108.0
国産ナフサ (円 / Kリットル)	26,000	48,100	50,450	46,000

スペシャリティー事業への戦略投資を継続

		2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 期初予想
当期純利益	(億円)	230	250	227	228	290
1株当たり配当*	(円/株)	105.0	120.0	125.0	125.0	135.0
						中間65.0 期末70.0
配当額	(億円)	92	105	108	108	116
配当性向		40%	42%	48%	47%	40%
自己株取得	(億円)	23	21	-	-	
総還元額	(億円)	115	126	108	108	
総還元性向		50%	50%	48%	47%	自己株取得 実施により 総還元性向 50%の方針 を維持
減価償却額		246	229	225	229	235
設備投資・投融資額	(億円)	270	328	369	423	430
ROE		10.0%	10.3%	9.1%	8.8%	10.5%

*当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、1株当たり配当は各期と比較しやすくするために、株式併合後の数値に換算した金額を表示。

1株当たり配当予想は前年比10円増配となる135円（修正なし）

営業利益

単位：億円

	2020年度 実績	2021年度 期初予想	2022年度 経営計画	前年比	主な施策
電子・先端プロダクツ	142	170	220	+50	球状アルミナ：xEV・5G通信関連需要加速、 シンガポール増設効果（2021年度末ごろ完工） アセチレンブラック：xEV・洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要加速、 安価用途から高付加価値用途への更なるシフト
ライフソリューション	148	105	110	+5	インフルエンザワクチン：2022年シーズンから原液製造新棟稼働 検査試薬：製品ラインナップ拡充、 検査需要回復（中国向け炎症マーカーなど） 新型コロナ検査キット：売価下落リスク織り込み がん治療用ウイルスG47Δ製剤「デリタクト®注」：2023年度以降の寄与期待
エラストマー・インフラソリューション	△36	40	70	+30	クロロプレソグム：需要回復 セメント：資源リサイクル増（都市焼却灰受け入れ増） 特殊混和材：リニア新幹線向け増、 トンネル工事用粉塵対策製品「クリアショット」の 拡販注力
ポリマーソリューション	84	95	110	+15	MS樹脂：導光板用途はTVやモニター向けに加え、 照明向けなどの需要が伸長、 化粧品容器などその他の用途の需要が拡大 シンガポールでの生産能力倍増（7月稼働開始） IP：高付加価値グレードの拡販（自動車内外装材用途など）
その他 / 消去差	8	10	△10	△20	（グループ全体の労働条件改善による労務費アップ含む）
合計	347	420	500	+80	※「デリタクト」は第一三共株式会社の登録商標です。

営業利益500億円達成に向けて、Denka Value-Upのスペシャリティー戦略を完遂

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Possibility of chemistry

Denka